

## 第 34 回運営小委員会 議事録

1. 開催日時：平成 29 年 6 月 23 日（金）10:00～12:00
2. 開催場所：東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト 2 階 会議室
3. 出席者：渡邊・阿部（東北大学）、高木・山本（東芝）、久宗・中野（原電）、内田・塚田・塙(JAEA)、赤峰(関電)、寺地（INSS）、稲垣（中部電力）、荘田（三菱重工）、長瀬（日立 GE）、室屋（大阪大学）、河村・藤原（電中研）、大橋（オルガノ）、佐藤（中国電力）、長谷川（東京電力） 【敬称略、順不同】

### 4. 議事

#### (1) 前回議事録の確認

長谷川委員（庶務担当）より、既にメールにて回覧済みであることから本委員会で承認し、追加でコメント等あれば庶務担当まで連絡することとなった。

#### (2) 2017 年度以降の水化学部会の活動計画について

久宗副部長より、資料に基づき水化学部会の中長期の業務計画に関する説明がなされ、AWC を 2021 年に日本で開催するとした場合、2018 年末から準備を行い、2019 年の韓国開催の AWC で予告する必要があることを踏まえ、夏期セミナーの開催を他部会と調整する必要がある旨の提案がなされた。

2021 年の 3 部会合同夏期セミナーの主催を 2018 年の核燃料部会と変更するか、または 2024 年の材料部会と変更するか、各部会と調整することとなった。まず、核燃料部会と調整することとした。また、2019 年の AWC 開催予定の韓国の動きについても状況を確認することとした。

#### (3) 第 31 回定例研究会について

佐藤氏（中国電力）より、資料に基づき第 31 回定例研究会の予定について説明がなされた。

開催日時は、10 月 13 日（金）13：30～17：00 で、場所は、中国電力・本社会議室とし、定例研究会当日の午前に中国電力・本社会議室にて第 35 回の運営小委員会を開催することとなった。

なお、定例研究会のテーマについては、今後調整することとした。

#### (4) 水化学ハンドブックの改訂について

室屋委員（WG 担当）より、資料に基づき原子炉水化学ハンドブックの改訂について説明がなされ、改訂にあたり WG を設立し、2018 年度末を目途にまとめたいとの提案がなされた。

本ハンドブックは、当部会としても重要なものであり、必要に応じて規約等を見直して WG を設立することとなった。また、最初から改訂するのは大変な

作業となることから、原本データの保管状況をはじめ、改訂に際し協力いただけるかコロナ社に確認することとした。

(5) AWC2017 への参加対応について

阿部委員(企画担当)より、資料に基づき AWC2017 報告書の作成について説明がなされ、NPC2014 の会議報告書をベースにすることを基本方針とする旨の提案がなされた。

報告書の構成等は、NPC2014 をベースとし、AWC と併催される MRNPP および AF\_MAINS においても水化学と関連が深いものは取り込むこととなった。

なお、現在、6 機関から 10 名程度の参加が見込まれているが、参加者、発表内容については、引き続き情報共有を図ることとする。

(6) 2017 年 秋の大会 企画セッションについて

山本委員(企画担当)より、資料に基づき 2017 年秋の大会での核燃料部会、材料部会、バックエンド部会との合同企画セッションについて報告がなされた。

大会最終日には、廃炉検討委員会が開催されると思われるので、本合同企画セッションの発表内容とかぶらないように調整すること、燃料デブリ専門研究委員会へも連絡しておくこと、また、合同企画セッション(5)の「各部会からの提言」について、当部会の代表として適任者の選任を検討することとなった。

(7) 将来構想検討 WG の活動状況について

寺地委員(WG 担当)より、資料に基づき将来構想検討 WG の活動状況について報告がなされた。

第 3 回検討 WG を 3 月に開催し、これまでの意見交換された内容等について検討を行い、本日開催の第 30 回定例研究会で提言することとした。(提言内容については定例研究会資料を参照)

また、原子力学会誌における部会トピックスとして、将来構想検討 WG の活動状況を掲載することとした。

(8) 水化学ロードマップのフォローアップ状況について

河村委員(企画担当)より、資料に基づき水化学ロードマップフォローアップ検討の進捗状況について報告がなされた。

水化学ロードマップフォローアップ WG の第 1 回の WG を平成 29 年 4 月 26 日に開催し、深層防護との関連づけや目次案と執筆分担等について検討を行った。

本ロードマップ策定においては、「軽水炉安全技術・人材ロードマップ」と整合性を図る必要があり、その検討状況を確認しながら進めることとした。

(9) FP 挙動研究専門委員会準備会の活動状況について

内田顧問より、資料に基づき「シビアアクシデント時の核分裂生成物挙動」研究専門委員会が6月19日の理事会にて承認され、正式に設立された旨の報告がなされた。

本研究専門委員会の設立にあたっては、企画委員会で文言の修正および委員追加を求められ、対応することによって承認された。

本研究専門委員会においては、委員の追加・変更は企画委員会と理事会の承認が必要となるが、常時参加者は委員会内の承認で参加可能となる。

(10) HWC 技術報告書の作成状況について

山本委員（東芝）より、資料に基づき「沸騰水型原子炉一次冷却系の腐食環境の定量評価の現状と標準化のための課題（仮称）」技術報告書の作成状況について報告がなされた。

現在、ドラフト版のレビューに対する見直しを行い、報告書を執筆中であり、今後、進捗確認会および検討会を実施し、2017年度中に発行できるように作業を進めている。

(11) 保全ハンドブックの進捗状況について

久宗副部長より、資料に基づき日本保全学会の保全ハンドブックの進捗状況について報告がなされた。

原子力に関連する一部（第 編 原子力基礎工学）について、執筆者からの原稿提出が遅れている等の理由により、当初予定では2017年3月発行を目標としていたが、2018年3月完成に変更されている。

(12) その他

長谷川委員（庶務担当）から、7月1日付の異動に伴い、後任の林田氏を代行者としたい旨の報告があった。また、原子力学会の部会等運営委員には埴委員（庶務担当）への変更を手続き中である。

水化学部会 HP について、情報の速やかなアップに心掛けるとともに、より分かり易い情報の提供について検討を進める。

次回運営小委員会は、平成 29 年 10 月 13 日（金）の午前、中国電力本社にて開催する。

以 上